



2026年5月12日

各位

会社名 株式会社三陽商会  
代表者名 代表取締役社長 兼 社長執行役員  
大江 伸治  
(コード: 8011 東証プライム)  
問合せ先 経営統轄本部 IR・広報戦略部長  
谷内 祥宏  
(TEL: 03-6380-5623)

## 議決権行使助言会社 ISS 社による 第 83 期定時株主総会議案に対する賛否推奨レポートについて

当社は、議決権行使助言会社である Institutional Shareholder Services Inc. (以下「ISS 社」といいます。) が、2026 年 5 月 28 日開催予定の当社第 83 期定時株主総会 (以下「本株主総会」といいます。) に上程を予定しております各議案について賛否推奨レポート (以下「本レポート」といいます。) を発行し、剰余金の配当に関する株主提案 (第 4 号議案) (以下「本株主提案」といいます。) に対して「反対」を推奨するとともに、会社提案である第 1 号議案 (剰余金の処分の件) に対して「賛成」を推奨したことを確認いたしましたので、お知らせいたします。

ISS 社は本レポートにおいて、本株主提案で要求されている特別配当 (1 株当たり 1,200 円) による追加の現金流出額について、当社のネットキャッシュおよび長期投資有価証券の合計額の 52.6%に相当する過大な要求であると指摘しています。また、当社が近年継続して配当支払いを増加させている実績を客観的に評価しており、当社の財務健全性や中長期的な成長投資を損ないかねない過度なキャッシュ・アウトを求める本株主提案には「反対」を推奨しています。

本レポートにおける ISS 社の推奨は、資本政策および株主還元に関する当社の取り組み方針について、ISS 社より実質的なご支持をいただいたものと受け止めております。

当社といたしましては、招集通知記載の“当社取締役会の意見”の通り、中長期的な企業価値向上および株主利益の向上に向けては、自己資本の一時的な圧縮による資本効率の見かけ上の改善にとどまらず、市場からの評価向上につながる持続的な収益力、即ち「稼ぐ力」を強化していく必要があると考えております。

具体的には、中期経営計画に掲げる諸施策の着実な遂行を通じて株主資本コストを上回る ROE を維持・向上させるとともに、投資家様からの将来成長への期待を高めることで PBR の改善を目指す方針です。

当社取締役会として、過度に短期的な還元政策を行うのではなく、既存事業の成長や新規ブランド開発、海外展開、M&A といった成長投資を通じて利益成長の確度を高め、持続的に企業価値を向上させることが、結果として中長期的な株主価値の最大化に繋がるものと確信しております。

株主の皆様におかれましては、招集通知をはじめとした当社の各種開示をご参照いただき、当社取締役会の意見へのご理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上